

PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE



女神は誰に微笑む――

古性優作



松浦 悠士

松浦悠士

※2024年01月30日現在

[illegible]

級班	氏 名	登録地	期別	競走得点	級班	氏 名	登録地	期別	競走得点	級班	氏 名	登録地	期別	競走得点
S5	佐藤慎太郎	福島	78 期	114.94	S1	渡部幸訓	福島	89 期	113.94	S1	窓場千加頼	京都	100 期	106.23
S5	脇本雄太	福井	94 期	115.92	S1	内藤秀久	神奈川	89 期	108.25	S1	神田紘輔	大阪	100 期	109.76
S5	深谷知広	静岡	96 期	116.82	S1	橋本強	愛媛	89 期	107.56	S1	久島尚樹	宮崎	100 期	103.79
S5	松浦悠士	広島	98 期	118.52	S1	山田英明	佐賀	89 期	110.85	S1	吉澤純平	茨城	101 期	109.40
S5	古性優作	大阪	100 期	118.00	S1	新田祐大	福島	90 期	114.17	S1	三谷竜生	奈良	101 期	111.45
S5	清水裕友	山口	105 期	116.55	S1	浅井康太	三重	90 期	113.30	S1	杉森輝大	茨城	103 期	108.31
S5	新山響平	青森	107 期	113.85	S1	稲川翔	大阪	90 期	113.04	S1	谷口遼平	三重	103 期	107.89
S5	眞杉匠	栃木	113 期	121.11	S1	村田雅一	兵庫	90 期	105.75	S1	渡邊雄太	静岡	105 期	108.77
S5	山口拳矢	岐阜	117 期	110.50	S1	阿竹智史	徳島	90 期	110.00	S1	岡本総	愛知	105 期	104.04
S1	香川雄介	香川	76 期	109.19	S1	山中貴雄	高知	90 期	100.80	S1	山岸佳太	茨城	107 期	106.21
S1	小倉竜二	徳島	77 期	110.59	S1	小川勇介	福岡	90 期	108.19	S1	吉田拓矢	茨城	107 期	110.00
S1	諸橋愛	新潟	79 期	113.33	S1	北津留翼	福岡	90 期	112.72	S1	隅田洋介	岡山	107 期	107.90
S1	桑原大志	山口	80 期	109.62	S1	小岩大介	大分	90 期	109.43	S1	取鳥雄吾	岡山	107 期	110.55
S1	野田源一	福岡	81 期	109.11	S1	菅田杏造	宮城	91 期	108.96	S1	高橋榮	東京	109 期	106.43
S1	荒井崇博	長崎	82 期	115.73	S1	神山拓弥	栃木	91 期	109.23	S1	末木浩二	山梨	109 期	103.13
S1	大塚健一郎	大分	82 期	109.47	S1	宿口陽一	埼玉	91 期	110.19	S1	太田竜馬	徳島	109 期	104.13
S1	佐々木雄一	福島	83 期	109.29	S1	柴崎淳	三重	91 期	104.65	S1	佐々木豪	愛媛	109 期	110.05
S1	竹内智彦	宮城	84 期	107.85	S1	和田圭	宮城	92 期	109.66	S1	皿屋豊	三重	111 期	109.74
S1	東口善朋	和歌山	85 期	112.65	S1	山田久徳	京都	93 期	112.03	S1	松本貴治	愛媛	111 期	109.55
S1	中川誠一郎	熊本	85 期	106.44	S1	椎木尾拓哉	和歌山	93 期	107.21	S1	松井宏佑	神奈川	113 期	115.00
S1	岡村潤	静岡	86 期	108.03	S1	坂本貴史	青森	94 期	105.21	S1	福永大智	大阪	113 期	109.50
S1	村上博幸	京都	86 期	111.86	S1	岩本俊介	千葉	94 期	111.78	S1	嘉永泰斗	熊本	113 期	112.61
S1	井上昌己	長崎	86 期	111.97	S1	山田庸平	佐賀	94 期	114.41	S1	坂井洋	栃木	115 期	111.74
S1	中村圭志	熊本	86 期	107.38	S1	小原太樹	神奈川	95 期	108.94	S1	佐々木悠葵	群馬	115 期	109.39
S1	平原康多	埼玉	87 期	113.22	S1	河端朋之	岡山	95 期	107.95	S1	伊藤颯馬	沖縄	115 期	109.37
S1	山賀雅仁	千葉	87 期	106.57	S1	守澤太志	秋田	96 期	113.33	S1	菊池岳仁	長野	117 期	104.76
S1	和田健太郎	千葉	87 期	113.61	S1	雨谷一樹	栃木	96 期	108.21	S1	寺崎浩平	福井	117 期	114.68
S1	岩津裕介	岡山	87 期	112.56	S1	長島大介	栃木	96 期	110.71	S1	町田太旭	広島	117 期	109.96
S1	園田匠	福岡	87 期	109.74	S1	松谷秀幸	神奈川	96 期	113.58	S1	伊藤旭	熊本	117 期	109.47
S1	大森慶一	北海道	88 期	110.79	S1	岡崎智哉	大阪	96 期	108.00	S1	北井佑季	神奈川	119 期	113.35
S1	佐藤友和	岩手	88 期	106.33	S1	中本匠栄	熊本	97 期	109.43	S1	犬伏湧也	徳島	119 期	112.42
S1	成田和也	福島	88 期	111.88	S1	武藤龍生	埼玉	98 期	110.95	S2	永澤剛	青森	91 期	109.91
S1	山崎芳仁	福島	88 期	108.03	S1	川口公太朗	岐阜	98 期	106.50	S2	塚本大樹	熊本	96 期	108.69
S1	渡邊一成	福島	88 期	106.00	S1	小松崎大地	福島	99 期	109.24	S2	鈴木竜士	東京	107 期	108.32
S1	南修二	大阪	88 期	115.03	S1	郡司浩平	神奈川	99 期	117.76	S2	久保田泰弘	山口	111 期	105.47
S1	柏野智典	岡山	88 期	107.54	S1	和田真久留	神奈川	99 期	110.50	S2	森田優弥	埼玉	113 期	109.24

令和6年能登半島地震復興支援競輪
第39回読売新聞社杯

全日本選抜競輪

2024

2.9金 10土 11日祝 12月休

イチ押し!

記者の



小山 記者



神田紘輔



山口拳矢

新S班の山口拳矢に今年の抱負を聞くと「またグランプリに乗れるように。お客さんの声援が本当にすごかった」と目指すは年末の大舞台。「全日本選抜が地元であるし、そこに向けてやっています。岐阜は(川口)公太郎さんと2人で少し地元代表として頑張りたい。(平記念で決勝を逃した)この状況で言うのもなんですけど、最低限決勝に乗れるように」と地元G1に照準を合わせてくるはず。岐阜はデビュー2年目の共同通信社杯で優勝して結果を出している。SSのユニフォームをまとい凱旋レースでの活躍に期待。

神田紘輔は平記念の準決で古性優作を交わして1着をとったが、古性は4着に沈んで優出ならずという結果に出てくる言葉は反省の弁。「古性君を交わせるとは思っていません。古性と経験値の差がまだまだある。そこを詰められればもっと上がると思う」とラインで勝ち上がることができずに悔やんだ。近畿ラインに厚みを加えるために今後の成長を誓った。



竹内 記者



窓場千加頼



渡部幸訓

G1デビューが21年の日本選手権と遅咲きの渡部幸訓は、昨年10月の寛仁親王牌で初めてのG1ファイナルを経験した。②③⑤③着と競輪祭では惜しくも連続のG1優出はならなかったが、新たなステージを迎えているのも確かだ。

「基本的には脚力不足。脚力的に余裕が出れば、精神的な相乗効果も出る。どこまで上げられるか。寛仁親王牌は(小松崎)大地さんに乗せてもらったけど、これからはいかに自分の仕事量が増やせるかが課題」

2勝をマークした平記念では、二次予選で区切りの30勝。40歳でも渡部には、まだまだ伸びしろがある。

平記念で通算3度目のG3優出を果たした窓場千加頼は、決勝でも見せ場たつぷりの2着。グレード初優勝にこそ手が届かなかったが、動きの良さが目を引いた。「いい開催だったし、同期に恵まれた。今度は(古性優作の)前を回れるように」。二次予選、決勝で実現した古性、神田紘輔と同期との連係が窓場に変革をもたらしたようで、G1でも十分に期待できる。



細川 記者



寺崎浩平



町田太我

フレームチェンジが奏功してさらに存在感を高めている町田太我。昨年12月久留米から1月小倉までに18走して8勝、2着7回と脅威の連対率は8割超えだ。「脇本(雄太)さんのフレームを参考に作って、(課題だった)ダッシュが凄く良くなりました」と確かな手応えをつかんでいる。和歌山記念の2日目には赤板を目指しての強烈な2周カマシで別線を完封し、新たな先行のスタイルを見出しつつある。フレームの特性を生かした攻めの走り今年一発目のG1に挑む。

年頭の和歌山記念は4日間通して攻めの走りを貫き、今年にかかる想いをレースにぶつけた寺崎浩平。「多分、4日間全てバックを取れたのは初めてです。実りのある開催だった。(今年の近畿にとつてのキーマンと古性優作に指名され)そうやって言っていただけのは嬉しいこと。自分で近畿での立ち位置っていうものを築いていかないとけない重要な一年に。去年はG1の決勝に乗れなかったのこそを目標に」。責任感ある走り近畿地区をけん引する。



権田 記者



橋本強



吉田拓矢

眞杉匠を初戴冠に導いたものの、失格の憂き目をみたオールスター。およそ4カ月を棒に振った吉田拓矢は、昨年12月の佐世保記念で復帰。全日本選抜でようやくG1戦線にカムバックを果たす。

「久しぶりのG1です。やっぱりG1で勝ちたい。記念もそうですけど、G1が一番。そこで結果を残したい」

直近の平記念を2①④②着。寺沼拓摩に託して共倒れに終わった準決は参考外で、シリーズを通して自転車の伸びも上々だった。当然ながら関東勢の盛り立ては必至で、いきなりの奪還があってもおかしくない。

「なんで気づけなかったんだろう。変なことを考えなきゃ良かった。失敗した…」

平記念の最終日に思わず後悔の言葉がもれたのは、橋本強。5月の日本選手権出場権獲得のため、是非でも獲得賞金を上積みさせなければならなかったが、3日目までは精彩を欠いた。フレームを換えた最終日によりやく白星。「全日本選抜で」巻き返します」と、反撃を誓った。